

イラク復興支援の在り方と日本の取り組みについて

1 状況認識

(1) 三つの誤算：「空白」に生じた「混沌」

1) 戦争は速やかに終結する。

「低強度戦争」の継続、ヨルダン大に対する爆弾テロ

* All Done. Go home.

* 街に溢れる電化製品

2) イラク人が早速国造りに取りかかる。

30万軍の解体。遅れる警察の復帰。反体制派から構成される IGC

* 軍解体の賛否：英国軍襲撃事件(「未だ組織された軍がない」)

ラマディの惨劇 7/5

3) 狂ったコスト・パフォーマンス見積もり

「空白」を埋めるために多大な労力(1週間1B)

米国への厳しい評価、3割打者への不満

* 無法地帯化(雇用の準拠法は？ 存在しない外交特権、効かない保険求償)

(2) 三つの誤解：「復興支援」とは？

1) 未だ戦争継続中なのに、復興支援とは？

戦争を終結させるための支援の併存。

10/24の復興支援会合の位置付けは？

2) どこまで復興するのか？ 「戦争前」に戻すこと？

上院外務委員会公聴会(戦争前の水準に)、40年間のギャップ、開戦前の失業率50%(ブレマー)。戦争前に戻すことで問題は解決しない。

3) 戦争の惨禍から回復することのみか？

長い間の独裁、計画経済、配給。移行経済支援も兼ねる。

* 配給制に浸りきった生活。難しい自立支援

* 暴力と圧政の文化(NGOの教訓)

* 身分証明書発給（戦前から変わっていない？）

（ 3 ） 三つアクター：混乱の中の「援助協調」

1) イラク政府

蛻の殻。略奪により廃墟と化した中央省庁

2) CPA

一室一省。1147 名：JICA より少ない人員、お城の中の密室行政、
素人集団

3) 国連その他ドナー

CPA との距離感。Approval への反発。通じない言葉

（ 4 ） 三つのシナリオ：予言の自己成就

閉じつつある Window of Opportunity (CSIS)

国防省シナリオ（CPA 単独の演出）

民主党シナリオ（治安は NATO+復興支援は国連）

破綻

（反対シナリオが実現した場合、その結果を厳しく評価）

（自分のシナリオが実現した場合、その結果を肯定）

2 日本の取り組みについての提言

提言1：まず、イラクの視点から考え、行動する。

要人対応、日本国内での議論、日本世論への対応、米国外交の視点、石油等々（外交的アプローチとのカウンターバランス）

イラク人のニーズ（多様）に応えていく姿勢

何を：電気、治安、雇用

どのようなかたちで：直接日本から、尊厳を守る

いつ：一刻も早く（調査公害）

危険回避行動も、イラク人のアドバイスに従う

コミュニティ・リーダーとの対話（旧サダム地区）

盗賊街道（ナセリア・バスラ間）

提言2：日本人のメッセージが直接届く協力を行う。

「日本人はイラク人の心の中にいる」

平和への願いを届ける。心のこもった援助。

日本らしい援助（彼らの期待に応える）

提言3：アメリカではできない協力をする。

日エ協力の賛否（是非ではなく、タイミング、方法論の問題？）

彼らの尊厳に触れる部分での援助、場の設定

（地方各州からの招聘：期せずして種々の立場の人が提言）

日本人のイメージ、非欧米としての存在

提言4：調査や視察を繰り返すのではなく、協力を実施する。

調査や視察にはコストを伴う。

「相手側の」コスト（心のコスト）も考える。

* ヒッラでの経験

提言5：政策枠組みに則し、現場で決断、実施する。

過酷な現場。

枠組みの中での即決即断

現場リソースの活用

(日本の NGO に拘らない。しかしその分現場の人員が顔を見せる)

提言 6 : 将来を見通しつつ対話し、長期に亘ってコミットする。

アフガンの教訓

下手なサッカーゲーム

国造り、人造りへの長期的取り組み

両国間の信頼関係構築 (時間がかかる)

以 上